

「ゆとり」の現実 「さとり」の真実

大学生1,000人にきいた

「ゆとり教育」に関する意識調査

結果報告書

2013年12月

大学生意識調査プロジェクト(FUTURE2013)

公益社団法人 東京広告協会

【調査レポートサマリー】

「ゆとりの現実」・「さとりの真実」

～ゆとり、ひとくくり、もううんざり～

ここまで「ゆとり教育」の評価、「ゆとり」自覚度と抵抗度から分けられる4層の特徴をみてきたが、これらをまとめると以下のように言える。

「ゆとり世代」と世間ではひとくくりにされてきた大学生は大きく4つのタイプにわかれることがわかった。未だに「ゆとり」の居心地の良さから抜けられない「真性ゆとり層」、「ゆとり」と呼ばれないように努力する「あせり層」、「ゆとり」なんてなんのその、我が道を行く「つっぱしり層」、「ゆとり」の覚えがなく、目指すことにまっすぐな「きっちり層」の4タイプ。彼らは就職観についても、いずれも異なった価値観を持っていることがわかった。ではそもそもなぜ4層に分けられたのか。

それは「ゆとり教育」に対して彼らが賛否両論あったからだ。「ゆとり教育」を受けた側として主観的な目で見ると、賛成している。しかし、を受けた側として世間の目も考慮して客観的に判断すると、反対する傾向にある。大きく彼らの評価を分けた要因として挙げられるのは、「ゆとり教育」が制度化されたことで「ゆとり」という言葉だけがひとり歩きを始め、世間が目に見えてわかる事実から「ゆとり教育」=よくないものと判断してしまったことだろう。これは学力の低下、教科書が薄くなったこと、週休二日制、そして何より「真性ゆとり層」の存在によるものである。これらの目に見えるマイナス面から、何か際立った失敗や行動があると、教育面だけでなく日常生活のあらゆることに関しても「ゆとりだから」の一言で片づけられるようになってしまった。しかし、失敗をする人やちょっとした変わり者はいつの時代にもいたのではないだろうか。たしかに「真性ゆとり層」のように将来のことを考えずに怠けた生活を送っている学生は以前よりも増えたかもしれない。しかし、コツコツと努力する「きっちり層」のような真面目な学生もいただろう。今はそれに加えて、「ゆとりコンプレックス」をバネにいつか見返す日を信じて頑張る「あせり層」や「ゆとり」風潮など最初から気にしていない「つっぱしり層」も誕生した。

世間で言われている「ゆとり」にあてはまるのは4割しかないとする、「ゆとり世代」に付随して流行している「さとり世代」とはどこが違うのだろうか。「さとり世代」は、あてはまる特徴もみてとれないこともあり認知度が低かった。それでも世間が大学生を「さとり世代」であると感じるのには何か要因があるのだろうか。

「さとり世代」とは、世の中が変わることはないと言いつつ現状で満足する開きなおった世代であると言われている。実際に、「真性ゆとり層」は現状に満足しがちである。しかし、彼らは決して上昇欲がなかったり諦めたりしているわけではない。上昇志向の強い「つっぱしり層」や、夢や目標を明確にもち努力を続ける「きっちり層」がいる。「ゆとり」だと認めたうえで、その負けず嫌いさから見返そうと努力する「あせり層」がいる。彼らが、諦めている、さどつていると言われるのは、彼らのいたって冷静に世の中をみている現実的なものの考え方からではないだろうか。たしかに夢や希望のスケールが小さくなったとパブルを知っている世代からは思われるだろう。しかし彼らは「失われた20年」と言われる時代を過ごし、数々の失敗や世の憂いなど世間の良い面だけではなく悪い面とも向き合わざるを得なかったのだ。そんなときに「ゆとり教育」が始まり、不況の中浮かれることもできず、「ゆとり教育」の時間の“ゆとり”と共に“静”の時代を過ごしてきた。

「ゆとり教育」がもたらした時間の“ゆとり”の使い方は人それぞれだった。自由になった時間を使って得た経験は、彼らに考える機会を与えた。その経験は、自分をどのように成長させたのか、また、何の成長機会にもならなかったのかを誰しも振り返っただろう。経験から得た喜びや後悔は、自分自身を振り返って得た成果だといえるのではないだろうか。彼ら大学生には“ゆとり”の時間が自分と向き合う時間だった。学力の低下という悪い面だけでなくこの「ゆとり教育」は“ゆとり”の時間を通してさまざまな価値観を与えてくれたのだ。

そしてこれから、「ゆとり」たちの“動”の時代が始まるのである。今までのように大企業に就職し、地位と名誉を獲得して成功したい人だけではなくなった。リスクを恐れず起業をする人が出てきたり、社会貢献を第一に考えた就職や、東京で成功することだけが正解ではないと地元で就職をする人が増えた。そして今までの「当たり前」の選択肢だけでなく新たに自分で選択肢を増やして動き始めるのである。「ゆとり」や「さとり」として扱われてきた私たちの大人から見て誤解を生むような行動や意識は、そもそも世間がもっていた評価基準や価値観だけでは、はかりきれなくなってきている。これは本来「ゆとり教育」が目指していたとされる、学業だけでは培えなかった新たな価値観が生まれているからなのだ。「ゆとり教育」によって自分の好きなことや得意なことを見つけ、うちこむ機会が創出された。だからこそ自身の将来に対する選択肢が広がっていることも自身の経験に基づいた価値観の多様化という点で納得がいく。

こうして「ゆとり教育」で生まれた“ゆとり”のある時間が、この不景気で様々な常識を再考する時期にあったことで、よりどりみどりの大学生を生み出すことに一役買ったのではないだろうか。

【レポートトピックス①】

「ゆとり」と呼ばないで。でも「さとり」って何？

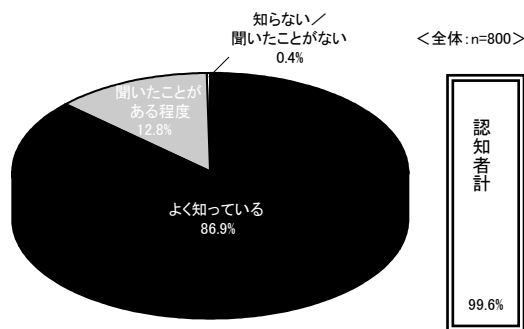
～「ゆとり教育」に賛否両論のゆとり世代～

「ゆとり教育」を受けてきた現在の大学生は、世間一般から「ゆとり世代」といわれること、そして「ゆとり教育」そのものをどのように評価しているのだろうか。

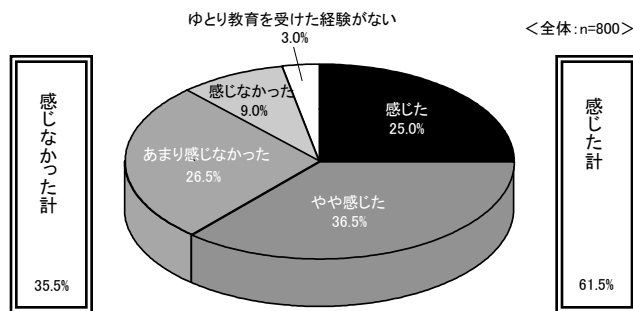
まず「ゆとり世代」という言葉を知っているか聞いたところ、「よく知っている」と回答した人が約9割という結果となった(図表1)。また、「ゆとり教育」とは「従来の『知識を重視した詰め込み教育』を見直し、学習時間と内容を減らすことでゆとりを持たせることを目指した、経験重視型の教育方針」といわれているが、実際に「ゆとり」を感じたか聞いたところ、「感じた(計)」と回答した人は約6割という結果となった(図表2)。これらのことから、現在の大学生は過去の学校教育の中で「ゆとり」を実感していたことがわかる。

では、自身が受けてきたこの「ゆとり教育」をどう評価しているのだろうか。「ゆとり教育」制度は良かったか聞いたところ、「良かった(計)」「良くなかった(計)」と回答した人はそれぞれ約5割で(図表3)、良かった理由の上位は「勉強以外の経験や自分のしたいことができたから」「休みが増え、自分の時間ができたから」「勉強量が少なく、楽に勉強できたから」となり(図表4)、良くなかった理由の上位は「学習時間が減ったことで一般常識や学力が低下したから」「『ゆとり』といわれ、他の世代にバカにされるから」という結果となった(図表5)。これらのことから、現在の大学生にとって「ゆとり教育」の評価は意見が二分していることがわかる。

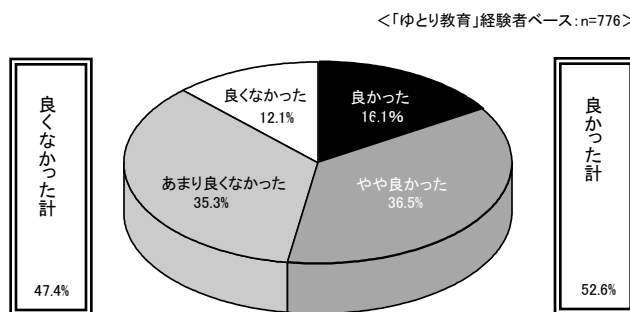
図表1 「ゆとり世代」認知度



図表2 「ゆとり教育」実感度



図表3 「ゆとり教育」評価



図表4 「ゆとり教育」評価理由

<「良かった」ベース:n=408>

ゆとり教育評価	計(人数)
1位 勉強以外の経験や自分のしたいことができたから	91人
2位 休みが増え、自分の時間ができたから	86人
3位 勉強量が少なく、楽に勉強できたから	66人

※上位3項目までをピックアップ

図表5 「ゆとり教育」評価理由

<「良くなかった」ベース:n=368>

ゆとり教育評価	計(人数)
1位 学習時間が減ったことで一般常識や学力が低下したから	122人
2位 「ゆとり」といわれ、他の世代にバカにされるから	91人
3位 意味のある政策に思えなかったから	29人

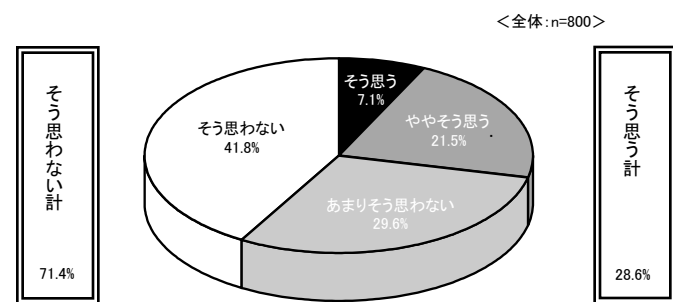
※上位3項目までをピックアップ

さらに、「ゆとり教育」を自分の子供にも受けさせたいか聞いたところ、「受けさせたいと思わない」と回答した人が約7割（図表6）、その理由の上位は「子どもの時に多くのことを学ぶべき/勉強しない子どもに育てほしくないから」、「良識のある大人になってほしい/必要な知識を身につけてほしいから」、「『ゆとり世代』というだけでバカにされるから」という結果になった（図表7）。これらのことから自身の「ゆとり教育」に対する評価は賛否両論だったが、子供の将来を考えるとあまり評価をしていないことがわかる。

このように「ゆとり教育」に対してやや否定的な大学生だが、近年世間でいわれる「さとり」についてはどうだろう。まず、「さとり世代」という言葉を知っているか聞いたところ、「知っている（計）」と回答した人が約3割しかいない結果となった（図表8）。「さとり世代」とは「現状に満足しており、何の変化も無く平凡な暮らしを望む草食系世代」と言われているが、自身を「さとり」だと思いか聞いたところ、「そう思う（計）」と回答した人が約3割と低い結果だった（図表9）。また、世間一般に言われる「さとり世代」の特徴について聞いてみると、「あてはまる」と回答した人の割合は、「海外旅行に興味がある」が約7割、「浪費しがちだ」が約6割という結果となった（図表10）。このように「ゆとり」の派生型として世間で言われている「さとり」であるが、実際には大学生には自身がさとりであるという実感がなく、性格面でもあてはまらないことがわかった。

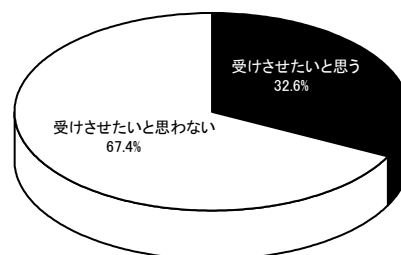
これらのことから、現在の大学生は、「さとり」については実感もなく、性格においても当てはまるものがないため、世間では騒がれているが、自分とは関係のないものにとらえていることが分かった。その一方で、「ゆとり」に対しては賛否が分かれる結果となり、この世代を「ゆとり」として、一括りにすることはどうやら難しいようだ。

図表9 自分自身「さとり」実感度



図表6 「ゆとり教育」を実子に受けさせたいか

<「ゆとり教育」経験者ベース:n=776>



図表7 受けさせたいと思わない理由

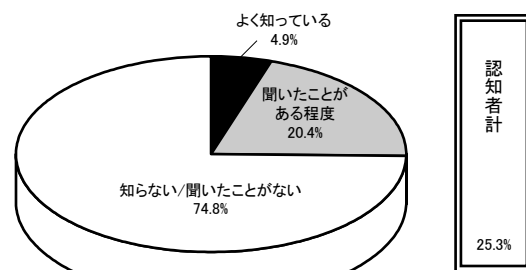
<受けさせたいと思わないベース:n=523>

順位	受けさせたくない理由	計(人数)
1位	子どもの時に多くのことを学ぶべき/勉強しない子どもに育てほしくないから	88人
2位	良識のある大人になってほしい/必要な知識を身につけてほしいから	68人
3位	「ゆとり世代」というだけでバカにされるから	65人

※上位3項目までをピックアップ

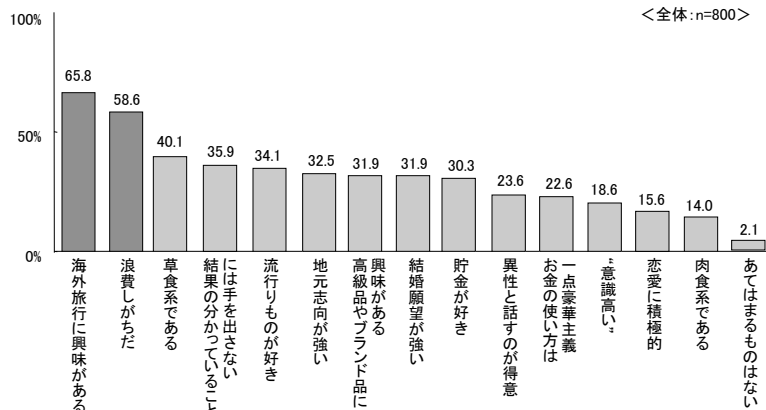
図表8 「さとり世代」認知度

<全体:n=800>



図表10 自分自身の性格について(さとり世代の特徴提示)

<全体:n=800>



【レポートトピックス②】

発見！「ゆとり世代」の4類型

～“自覚”と“抵抗感”で分かれる「ゆとり世代」～

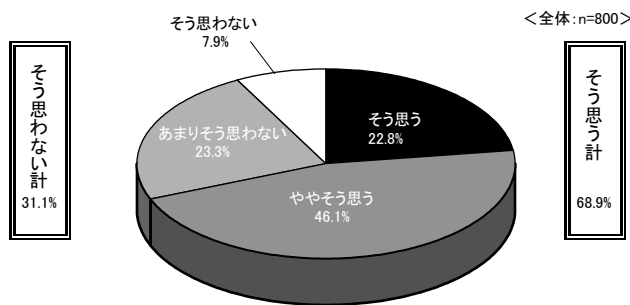
前章では、「ゆとり教育」のとりえ方に賛否両論あることが判明した。ではなぜこのような結果になったのだろうか。「ゆとり教育」が制度化されたことにより「ゆとり」という言葉が誕生し、大学生の「ゆとり」に対する認識の違いからこのような結果となったのではないだろうか。そこで本章では、大学生の「ゆとり」のとりえ方について詳しくみていく。

まず、自身を「ゆとり」だと思うか聞いたところ、「そう思う（計）」と回答した人は約7割だった（図表11）。一方、自分以外の同世代の人を「ゆとり」だと思うか聞いたところ、「そう思う（計）」と回答した人が約8割だった（図表12）。また、自身が「ゆとり」だと言われることに抵抗があるか聞いたところ、「抵抗がある（計）」と回答した人が約5割だった（図表13）。これらのことから、自身も同世代の人も「ゆとり」であると認識していることがわかる。しかし、「ゆとり」であるという自覚の有無は二分され、さらに「ゆとり」と言われることに抵抗がある人となない人も半数ずつにわかれた。

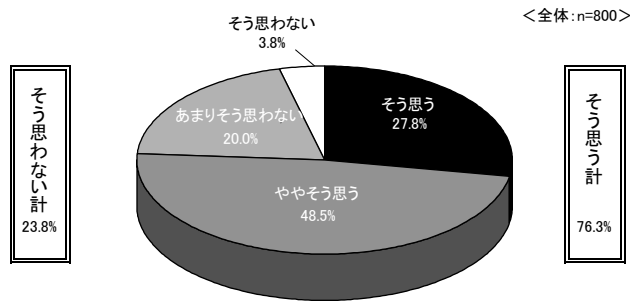
次に、まわりの人々から「ゆとり」だと言われた経験があるか聞いたところ、約5割の人が「言われたことがある」と回答した（図表14）。また、どのようなときに指摘されたか聞いたところ、「一般常識を知らなかった/知らない知識があったとき」、「（アルバイト先などで）失敗をしたとき」、「小・中学校時代、土日が休みだったことを前提に話をしたとき」が上位3つの理由となった（図表15）。これらのことから、大学生は教育面だけでなく生活面であっても周りから「ゆとり」だと指摘された経験があることがわかった。

このように、本来の「ゆとり教育」の意味とは異なった、「ゆとり」という言葉が使われだしたことで、世間では「ゆとり」=マイナスのイメージとして、認識されてしまった。自身が受けてきた「ゆとり教育」に対するとらえかたと世間の「ゆとり」へのイメージのズレが、大学生の自覚と抵抗の有無に影響を与えたのだろう。「ゆとり教育」に対する評価が二分し、自覚や抵抗の有無があることを考えると、それぞれ違った特徴を持った「ゆとり」という枠では収まらない大学生たちが生まれたのではないか。そこで彼らの特徴を大きくわける要因である、自覚度と抵抗感という二つの質問を軸に、この世代を4つのタイプに分類してみたい。

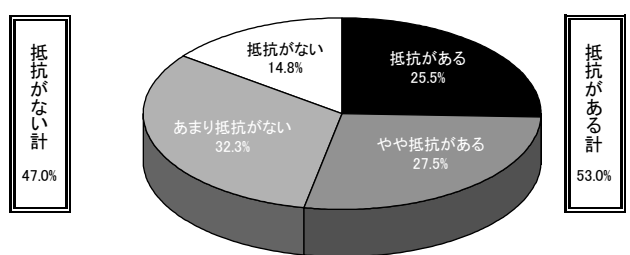
図表11 自分自身の「ゆとり」自覚度



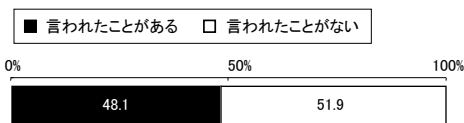
図表12 自分以外の同世代を「ゆとり」と思うか



図表13 「ゆとり」抵抗度



図表14 「ゆとり」指摘経験



図表15 「ゆとり」指摘経験

＜ゆとり指摘経験ありベース：n=385＞

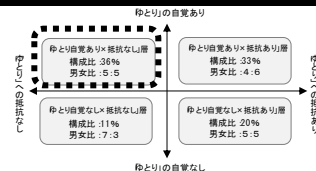
ゆとり指摘シーン	計(人数)
1位 一般常識を知らなかった/知らない知識があったとき	52人
2位 (アルバイト先などで)失敗をしたとき	28人
3位 小・中学校時代、土日が休みだったことを前提に話をしたとき	25人
4位 (勉強内容の差など)他の世代と比較されたとき	22人
5位 (遅刻をする/10分前行動ができないなど)時間にルーズだったとき	20人

参考) 4タイプの分類図



タイプ①

【レポートトピックス③】



現状に満足気味の“真性ゆとり層”

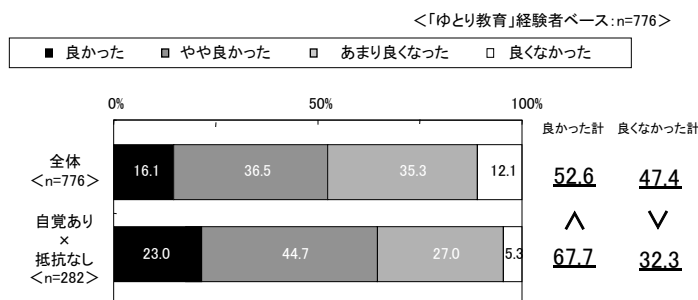
～ゆとりのなごりが今も続くのんびり派～

本章では、自身を「ゆとり」と自覚している一方で、「ゆとり」と言われることに抵抗がない層についてみていく。(この層は、全体の約4割程度で、1～2年生が約6割を占め、男女比はほぼ同じである。)この層はなぜ「ゆとり」という自覚がありながら、「ゆとり」と言われることに抵抗がないのだろうか。

まずはじめに、過去に受けた「ゆとり教育」の評価をみると、「良かった(計)」と回答した人が約7割で、全体よりも約15ポイント高かった(図表16)。その理由は「休みが増え、自分の時間ができたから」が最も多かった(図表17)。また、まわりの人から『あなたはゆとり』だと「言われたことがある」と回答した人が約5割という結果になった(図表18)。このことから、この層は休みが多かったという点で「ゆとり教育」を評価しているため、「ゆとり」といわれることに抵抗感があまりないと考えられる。

さらに、彼らの価値観の上位は全体と大きな差はないが、「現状に満足しており、特に変化を求めない」が約4割で、全体より約9ポイント高い一方で、「自分で考えて行動することが得意なほうだ」、「人より秀でたい気持ち強い」、「自分にプライドがあるほうだ」については、それぞれ全体より低かった(図表19)。このことから、この層は、そもそも現状に満足しやすい傾向が強いため、ゆとりといわれても抵抗感がなくともいえる。

図表16 「ゆとり教育」の評価



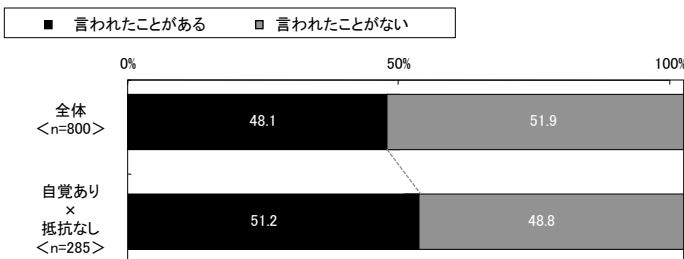
図表17 「ゆとり教育」評価理由(自覚あり×抵抗なし)

＜良かったベース:n=191＞

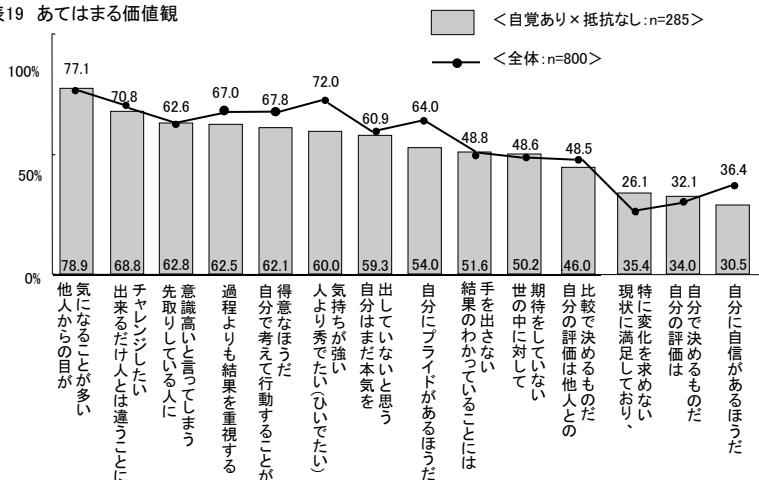
「ゆとり教育」良かった理由	計(人数)
1位 休みが増え、自分の時間ができたから	51人
2位 勉強以外の経験や自分のしたいことができたから	39人
3位 勉強量が少なく、楽に勉強できたから	36人

※上位3項目までをピックアップ

図表18 ゆとり指摘経験



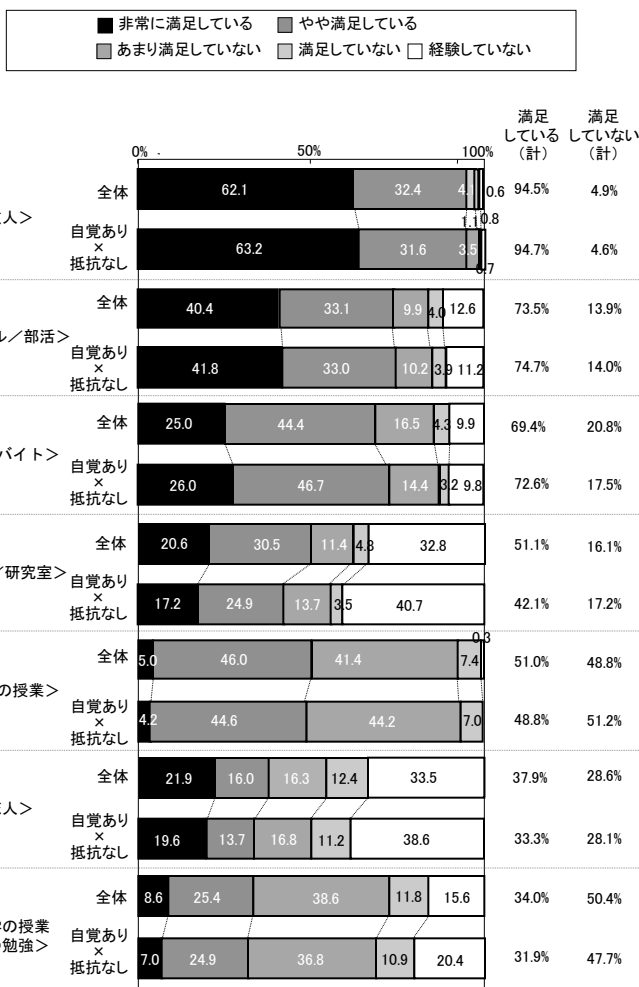
図表19 あてはまる価値観



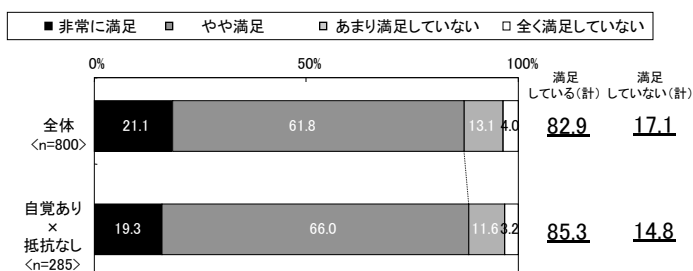
では現在の大学生活はどうなのか。今の大学生活に対しては「満足している(計)」と回答した人が約9割と満足度は高く(図表20)、中でも最も「友人」に満足している(図表21)。また、自身の授業を受ける態度や姿勢の客観的評価を聞いたところ、「良くないほうだと思う(計)」と回答した人が約5割で、全体よりも約7ポイント高い(図表22)。さらに、大学の授業以外で将来に向けた勉強を「していない」と回答した人が約7割で、全体よりも約12ポイント高い結果となった(図表23)。これらのことから、ゆとり教育を評価し、現状に満足してしまう性格から、特に自分に対する危機感や問題意識が低いため、学校の授業や、それ以外の勉強に対しても消極的な姿勢を持っていることがわかる。

図表21 大学生生活の各項目における満足度

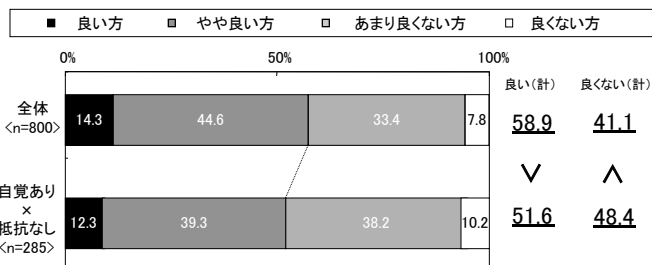
<ゆとり自覚あり×抵抗なし:n=285>



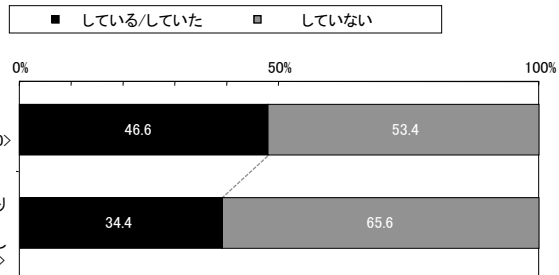
図表20 大学生生活全般満足度



図表22 授業を受ける態度



図表23 将来に向けての勉強

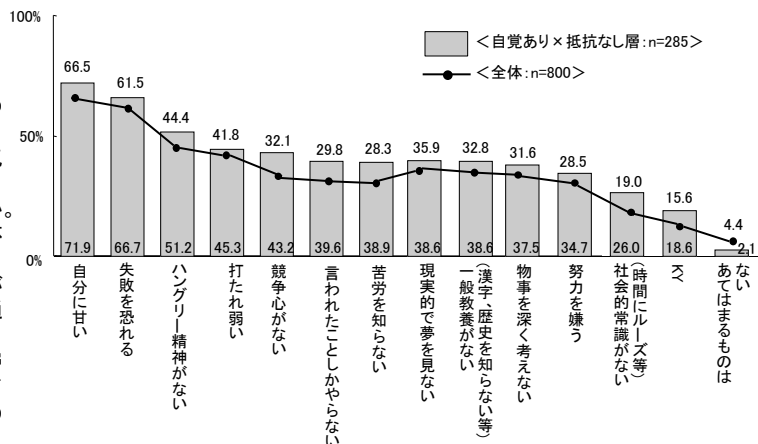


また、この傾向は彼らの性格にも現れている。あてはまる性格については、特に全体との差分が大きかったのは、「自分に甘い」、「失敗を恐れる」、「ハングリー精神が無い」がそれぞれ全体よりも5ポイント以上高く、さらに「競争心がない」、「言われたことしかやらない」、「苦勞を知らない」と回答した人はそれぞれ約4割だが、全体より10ポイント以上高い結果となった(図表24)。つまり、この層は、世間一般で言われる「ゆとり世代」の特徴を多く持ち、自分に甘く、他人と競い合ってまで努力をする気もない無気力な性格であることがわかった。

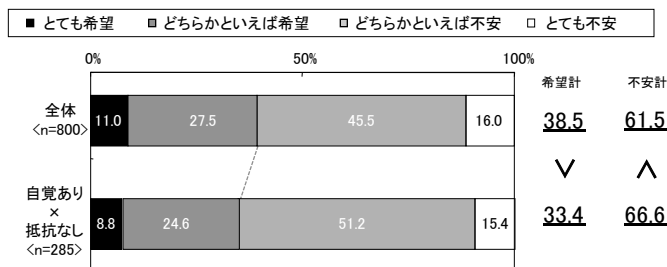
ではこの層は、これからの将来に対してどう考えているのだろうか。将来に対して、「不安がある(計)」と回答した人が約7割で全体よりも約5ポイント高く(図表25)、その理由を聞いたところ、「明確な夢や目標、将来像が決まっていないから」と回答した人が62人で最も多い結果になった(図表26)。また、卒業後、社会に通用する「自信がない(計)」と回答した人が約7割で全体よりも約7ポイント高い結果となった(図表27)。これらのことから、この層は現状に満足し無気力な性格であるがゆえに、自らの将来についての考えを持たないのだろう。将来のビジョンを持とうとしないこの層は、将来に対し漠然とした不安を抱えていることがわかった。

この層は、入学したばかりの1~2年生が多く、受験や就活といったストレスを抱えなくて済むため、将来のことを考えるよりも友人と今を楽しんでいる。現実から目をそらして好きなことをする、「ゆとり世代」の悪いイメージがそのまま現れているような怠惰な面があるこの層は、いつまでもゆとり教育の余韻にひたり、居心地の良いぬるま湯から出ようとしなない、ゆとり教育のなごりが残る、「真性ゆとり」タイプといえるのではないだろうか。

図表24 自分自身の性格について



図表25 「自分の将来」への希望/不安度



図表26 「自分の将来」への希望/不安理由(自覚あり×抵抗なし)

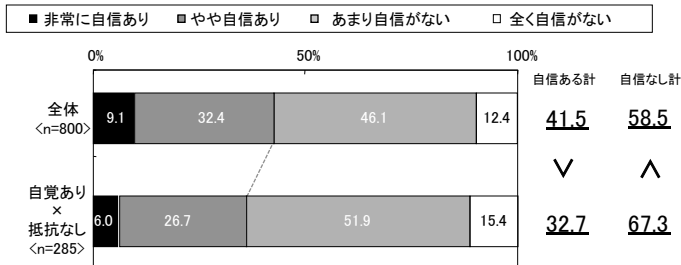
<不安を感じるベース:n=190>

順位	「自分の将来」へ不安を感じる理由	計(人数)
1位	明確な夢や目標、将来像が決まっていないから	62人
2位	就職できるか不安だから	48人
3位	自分に自信がないから	18人

※上位3項目までをピックアップ

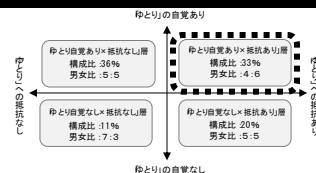
図表27 卒業後、社会に通用する自信

<全体:n=800>



【レポートトピックス④】

タイプ②



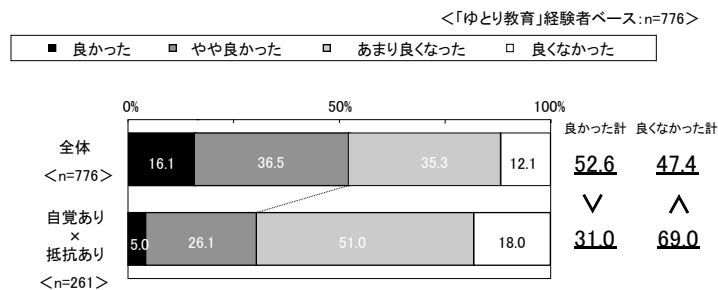
ゆとりにコンプレックスを感じる「あせり層」

～不安をバネに挑む努力派～

では、自身を「ゆとり」として自覚している一方で、「ゆとり」といわれることに抵抗がある層についてみていく。(この層は、全体の約3割程度で、学年差はないが女性が約6割占めていることが特徴。)この層はなぜ、「ゆとり」という自覚がありながら、「ゆとり」だと言われることに抵抗があるのだろうか。

まずはじめに、過去に受けた「ゆとり教育」の評価をみると、「ゆとり教育」制度が「良くなかった(計)」と回答した人が約7割で、全体より約22ポイント高かった(図表28)。その理由の上位は、「学習時間が減ったことで一般常識や学力が低下したから」、「『ゆとり』といわれ、他の世代にバカにされるから」という結果となった(図表29)。また、まわりの人から『あなたはゆとり』だと「言われたことがある」と回答した人が約6割で、全体より約12ポイント高かった(図表30)。このように、「ゆとり教育」制度による学力低下や、バカにされる意味でのゆとり指摘経験が多いため、そもそもゆとり教育自体を評価していない。さらに、彼らの価値観の上位項目に注目すると、「他人からの目が気になることが多い」、「人より秀でたい気持ち強い」がそれぞれ約8割、「自分はまだ本気を出していないと思う」が約7割と、それぞれ全体より約5ポイント程度高かった(図表31)。これらのことから、この層は、他人よりも秀でたい負けず嫌いな性格なため、今の自分を「ゆとり」としてひとくくりされることに嫌悪感があるようだ。

図表28 「ゆとり教育」評価



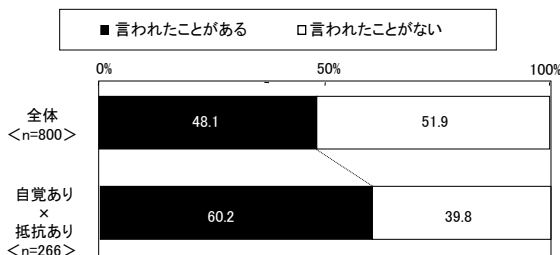
図表29 「ゆとり教育」評価理由

＜自覚あり × 抵抗あり層 / 良くなかったベース:n=180＞

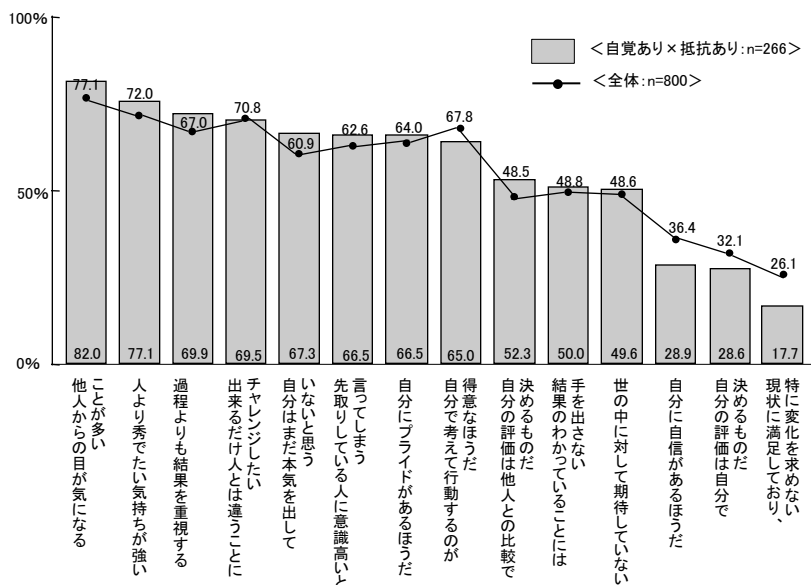
「ゆとり教育」良くなかった理由	計(人数)
1位 学習時間が減ったことで一般常識や学力が低下したから	62人
2位 「ゆとり」といわれ、他の世代にバカにされるから	53人
3位 意味のある政策に思えなかったから	13人

※上位3項目までをピックアップ

図表30 「ゆとり」指摘経験

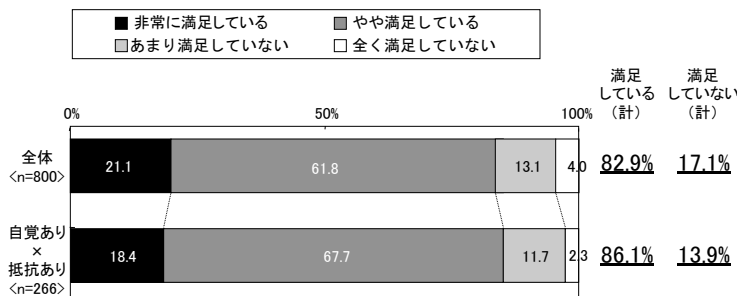


図表31 あてはまる価値観



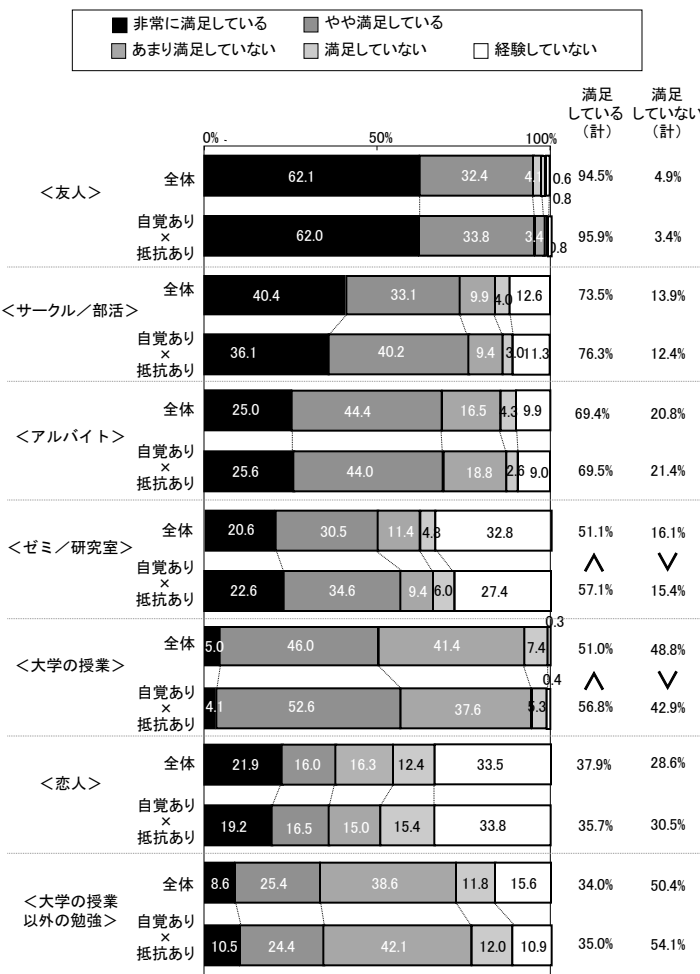
では、過去のこういった経験は現在の大学生活にどういった影響を与えているのか。今の大学生活に対しては「満足している（計）」と回答した人が約9割と満足度は高く（図表32）、具体的には各項目総じて満足度が高いが、特に「大学の授業」が約6割、「ゼミ／研究室」が約6割で、全体よりそれぞれ約6ポイント高かった（図表33）。さらに、大学の授業以外で将来に向けた勉強を「している／していた」と回答した人が約5割で、全体より約8ポイント高かった（図表34）。さらに、自身の授業を受ける態度や姿勢の客観的評価を聞いたところ、「良いほうだと思う（計）」と回答した人が約6割だった（図表35）。このことから、他世代から「ゆとり」と揶揄されているために、学力低下を指摘されないよう現在の勉強や学びに対して積極的に取り組んでいることがわかる。

図表32 大学生生活全般満足度

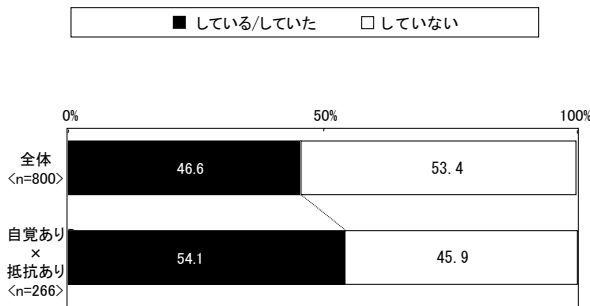


図表33 大学生生活の各項目における満足度

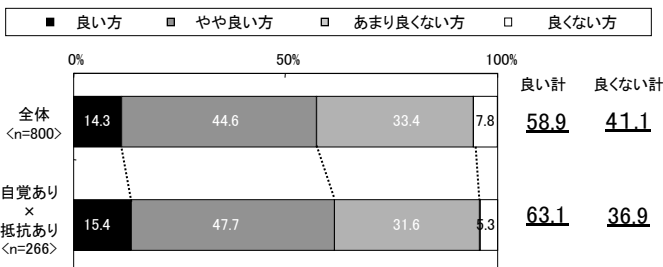
<ゆとり自覚あり × 抵抗あり>: n=266



図表34 将来に向けての勉強

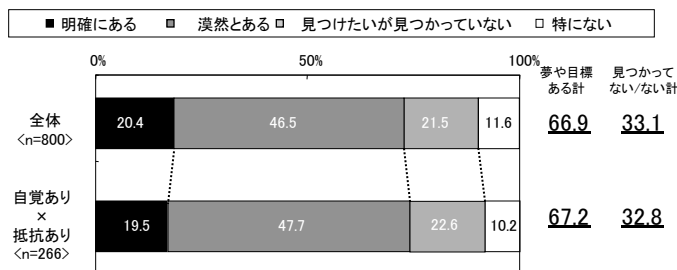


図表35 授業を受ける態度

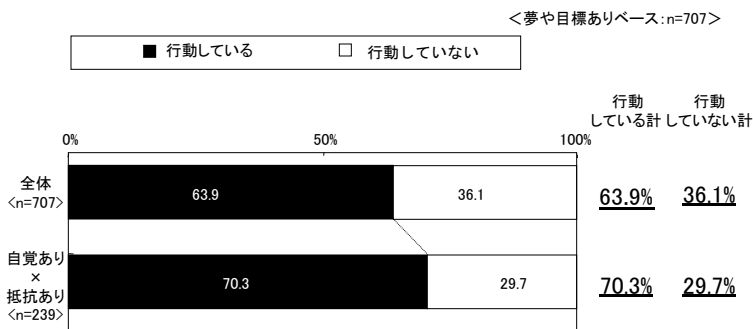


では、そんな彼らはこれから将来に対してどう考えているのだろうか。将来実現したい「夢や目標がある（計）」と回答した人が約7割（図表36）、その夢や目標に向けて「行動している（計）」と回答した人が約7割で、全体より約6ポイント高かった（図表37）。具体的な方法を聞いたところ、「まじめに授業を受ける」と回答した人が約4割で、全体より6ポイント高かった（図表38）。このことから、将来を見据えて大学での学びに自発的に取り組むことで、着実に夢や目標をかなえようとしている姿がみえてくる。

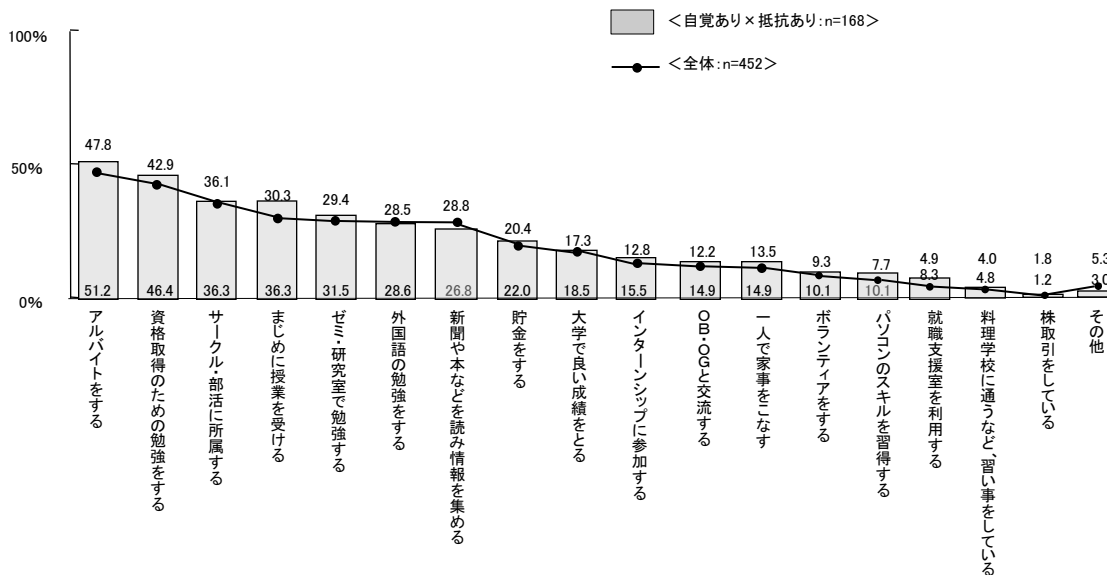
図表36 将来実現したい夢や目標の有無



図表37 夢や目標に向けての行動有無



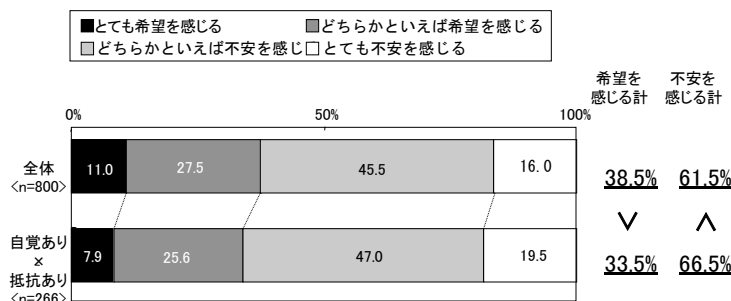
図表38 夢や目標に向けての具体的な行動



一方で、将来に対して「不安がある（計）」と回答した人が約7割で全体よりも5ポイント高く（図表39）、その理由を聞いたところ、「明確な夢や目標、将来像が決まっていないから」が55人、「就職できるか不安だから」が53人、「自分に自信がないから」が17人だった（図表40）。また、卒業後、社会に通用する「自信がない（計）」と回答した人が約7割で全体より約7ポイント高かった（図表41）。また、彼らの性格の上位項目に注目すると、「自分に甘い」、「失敗を恐れる」が約7割、「ハングリー精神がない」「打たれ弱い」と回答した人が約5割で全体より高かった（図表42）。このことから、将来に向けた準備をしっかりとっている層のように見えたが、具体的な目標は見えておらず、今の自分の能力に対する過度な自信のなさが浮き彫りとなる結果となった。

このように、この層はゆとり教育に対して否定的で、「ゆとり」と呼ばれることにコンプレックスを抱きつつ、それを糧に日々勉学に取り組み、挽回しようとする層であることがわかった。しかし、こういった努力も、「ゆとり」と揶揄し続けられ、さらに弱気な性格から、なかなか自分に対する自信につなぐことができず、将来が不安でしようがない「あせり」な側面もどうやらあるようだ。

図表39 「自分の将来」への希望/不安度

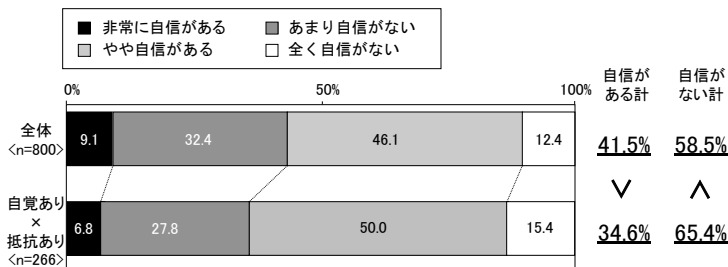


図表40 「自分の将来」への希望/不安理由

<自覚あり × 抵抗あり/不安を感じるベース:n=191>

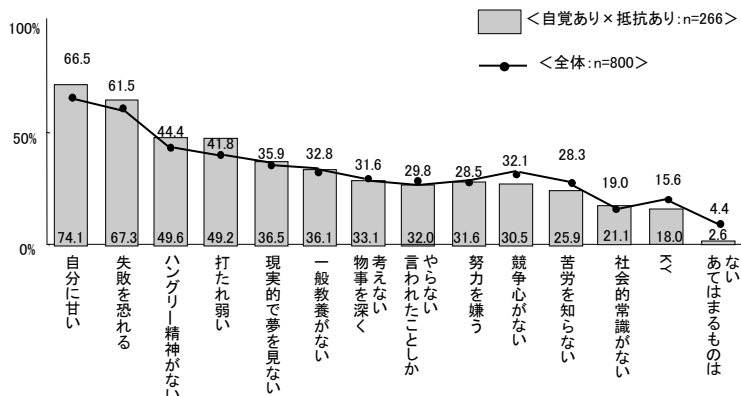
順位	「自分の将来」へ不安を感じる理由	計(人数)
1位	明確な夢や目標、将来像が決まっていないから	55人
2位	就職できるか不安だから	53人
3位	自分に自信がないから	17人

図表41 卒業後、社会に通用する自信



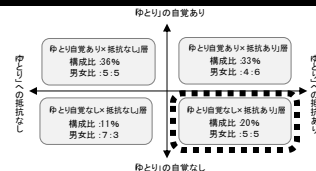
※上位3項目までをピックアップ

図表42 自分自身の性格について



タイプ③

【レポートトピックス⑤】



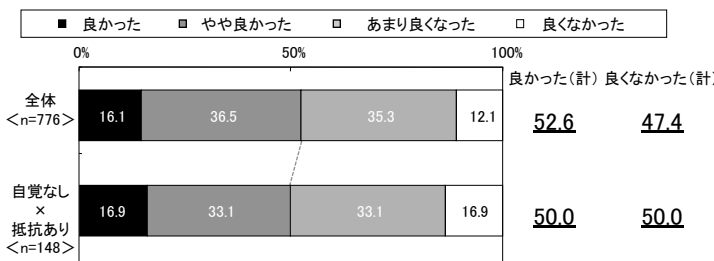
ゆとり風評被害には屈しない「きちり層」

～スティックで自律的な堅実派～

次に、自身を「ゆとり」と自覚していない一方で、「ゆとり」と言われることに抵抗がある層についてみていく。(この層は、全体の約2割程度で、3～4年生が6割を占め、男女比が半々が特徴。)前章とは異なり、この層はなぜ「ゆとり」という自覚がないにも関わらず、「ゆとり」と言われることに抵抗があるのだろうか。

まず、過去に受けた「ゆとり教育」の評価をみると、「ゆとり教育」制度が「良かった(計)」「良くなかった(計)」が共に約5割で割れる結果となった(図表43)。「良かった(計)」の理由は「ゆとり教育を悪いものだと思っていないから」が17人で最も多く(図表44)、「良くなかった」理由では「ゆとり」と他の世代にバカにされるから」が20人で最も多かった(図表45)。また、まわりの人から『あなたはゆとり』だと「言われたことがない」と回答した人が約6割で、全体より約8ポイント高かった(図表46)。また、自分以外の同世代の人を「ゆとり」だと思うか聞いたところ、「そう思わない(計)」と回答した人が約6割で、全体より約33ポイント高かった(図表47)。このことから、この層はゆとり教育には賛否両論だが、指摘経験も多くなく、同世代をゆとりと認識していないことから、世代全体をゆとりとしてひとくくりされることには抵抗があるようだ。さらに、彼らの価値観の上位項目に注目すると、「人より秀でたい気持ち強い」、「自分で考えて行動することが得意なほうだ」、「自分にプライドがあるほうだ」と回答した人が3項目とも約8割で、全体と比べて約10ポイント高かった(図表48)。

図表43 「ゆとり教育」の評価



図表44 「ゆとり教育」の評価理由

<自覚なし×抵抗あり、良かったベース:n=74>

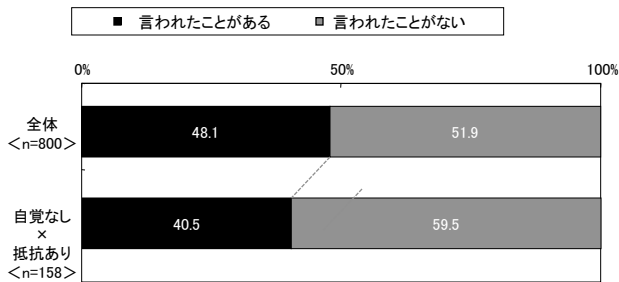
ゆとり教育が「良かった」と思う理由	計(人数)
1位 ゆとり教育を悪いものだと思っていないから	17人
2位 休みが増え、自分の時間が増えたから	15人
3位 勉強以外の経験や、自分のしたいことができたから	11人

図表45 「ゆとり教育」の評価理由

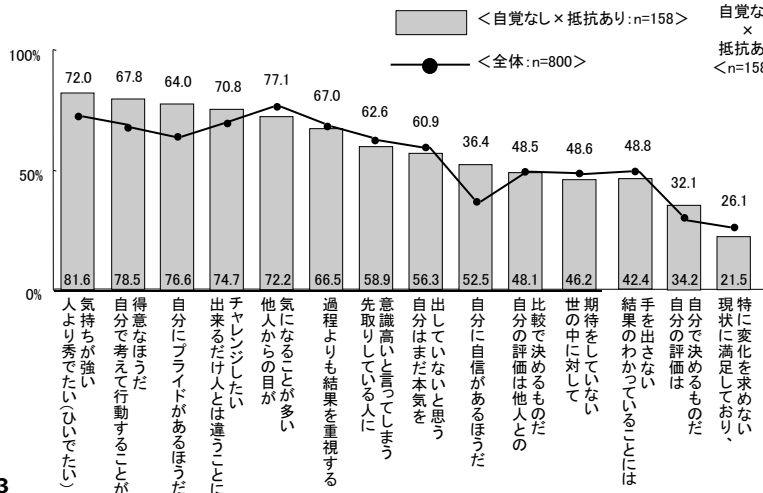
<自覚なし×抵抗あり、良くなかったベース:n=74>

ゆとり教育が「良くなかった」と思う理由	計(人数)
1位 「ゆとり」と言われ、他の世代にバカにされるから	20人
2位 学習時間が減ったことで一般常識や学力が低下したから	19人
3位 自力で勉強しなければならず同世代間の学力の差が生まれるから	10人

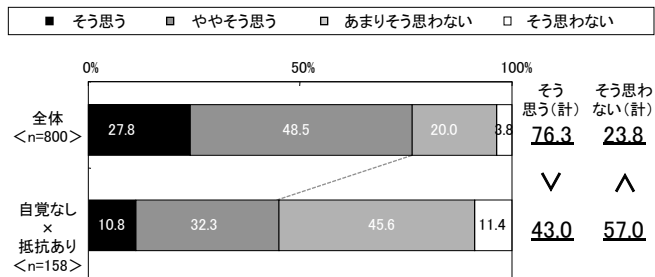
図表46 「ゆとり」指摘経験の有無



図表48 あてはまる価値観



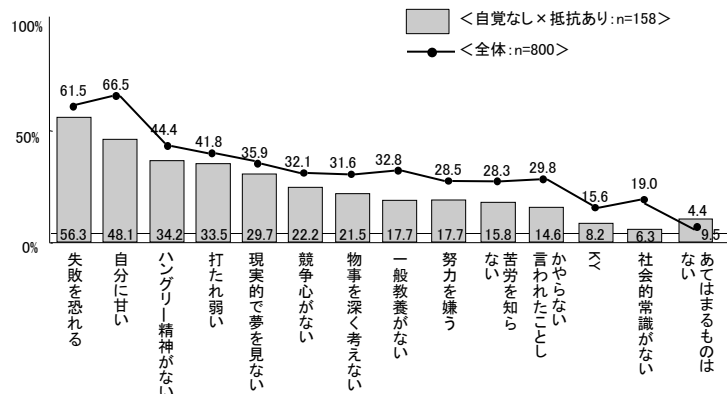
図表47 同世代を「ゆとり」だと思うか



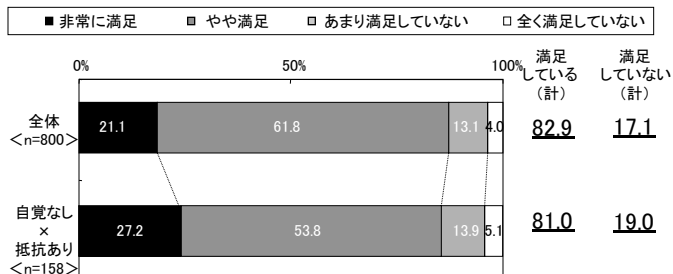
彼らの性格を見てみても、ゆとりに特徴的な性格といわれるすべての項目で、「あてはまる」が全体を下回る結果となり、特に差が顕著なのは、「自分に甘い」、「言われたことしかやらない」、「一般教養がない」で、それぞれ全体よりも15ポイント以上低かった（図表49）。このことから、この層はそもそも自分に厳しく、自らやるべきことを考え行動に移している。そのため世間一般に言われる「ゆとり」の特徴とは大きく異なることがわかる。

では、現在の大学生活はどうなのか。今の大学生活に対しては「満足している（計）」と回答した人が約8割（図表50）、具体的には、「友人」と回答した人が約9割と最も高い結果になった（図表51）。また、自身の授業を受ける態度については、「良いほうだと思う（計）」と回答した人が約7割で、全体より約8ポイント高かった（図表52）。

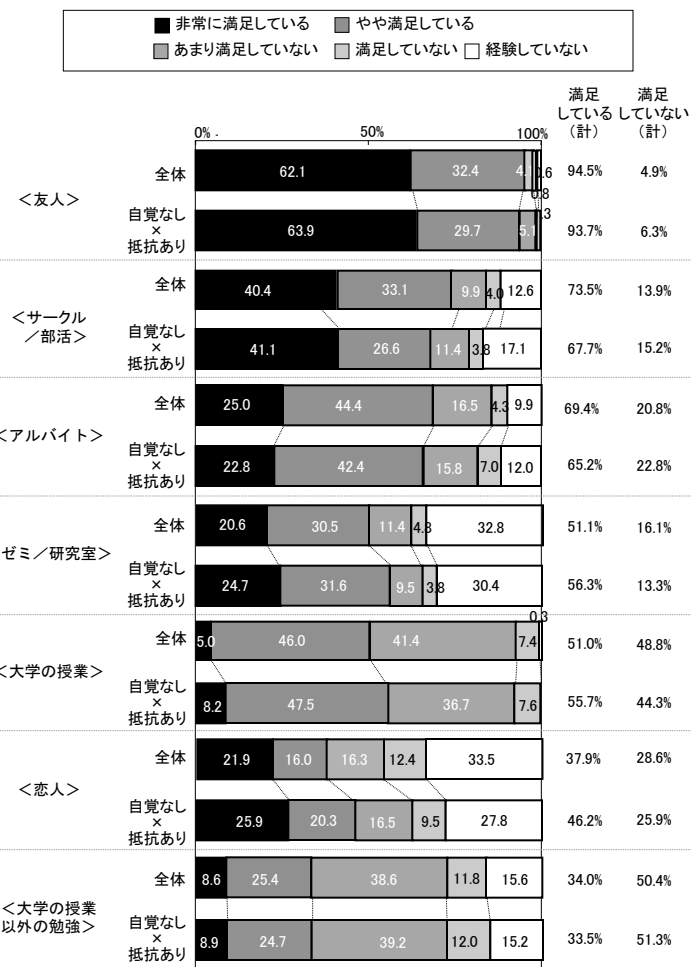
図表49 自分自身の性格について



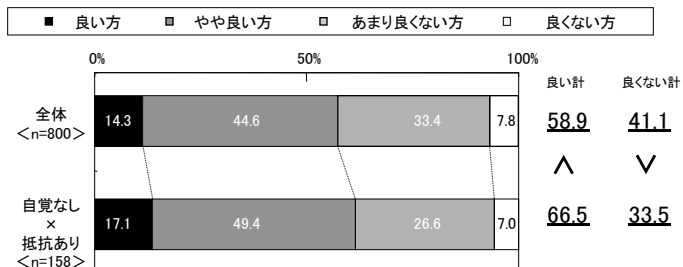
図表50 大学生活全般満足度



図表51 大学生活の各項目における満足度 <ゆとり自覚なし×抵抗あり:n=158>



図表52 授業を受ける態度

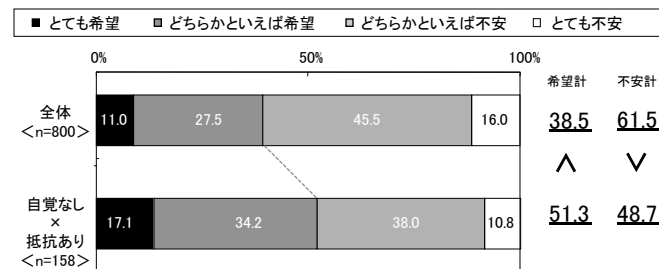


次に大学の授業以外で、将来に向けての勉強を自主的にしているか聞いたところ「している/していた」と回答した人が約5割で、全体より約7ポイント高かった(図表53)。具体的な方法を聞いたところ、「参考書を用いて勉強する」と回答した人が約6割で約9ポイント、「新聞を読む/ニュースを見る」と回答した人が約5割で約19ポイント全体より高かった(図表54)。このことから、この層の大学生は人付き合いも大切にし、大学の授業やそれ以外の勉強にも積極的に取り組んでいることがわかる。

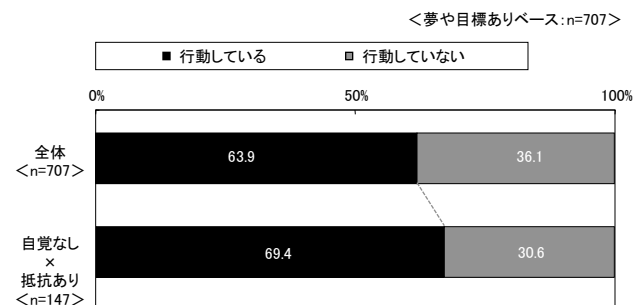
では、そんな彼らはこれから将来に対してどう考えているのだろうか。将来に対して、「希望がある(計)」と回答した人が約5割と、全体より約13ポイント高かった(図表55)。次に将来実現したい夢や目標があるか聞いたところ、「夢や目標がある(計)」と回答した人が約8割で全体より約13ポイント高かった(図表56)。また、その夢や将来に向けて行動しているか聞いたところ「行動している(計)」と回答した人は約7割で、全体より約6ポイント高かった(図表57)。また、卒業後社会に通用する自信があるか聞いたところ、「自信がある(計)」と回答した人は約6割で全体より約14ポイント高かった。(図表58)。これらのことから、この層は、将来に対して前向きであり、自分の夢や目標に向かって現在から計画的に行動している。

このように、この層は日々努力を重ねてきたため、「ゆとり」という自覚がなく、だからこそ「ゆとり」と呼ばれることには抵抗を感じる。彼らはそのストイックさを根拠とした高いプライドと自信を持っており、世間に言われる「ゆとり」の特徴にはまるで当てはまらない。彼らは将来に対しても前向きで、自発的に行動をはじめている「きっちり」層であると言える。

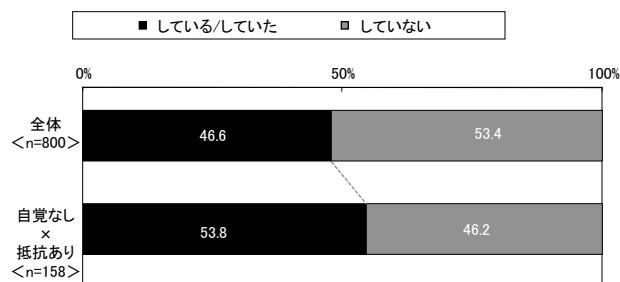
図表55 将来への希望の有無



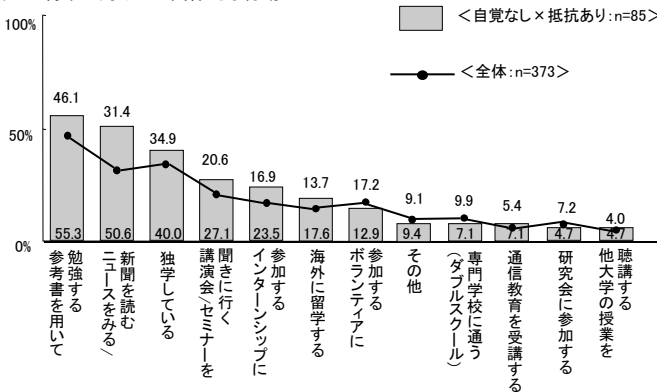
図表57 夢や目標に向けた行動の有無



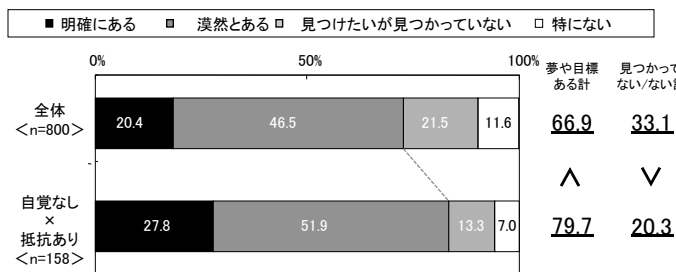
図表53 将来に向けての勉強



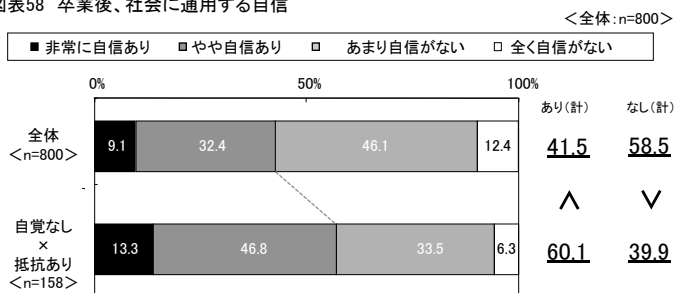
図表54 将来に向けての具体的な行動



図表56 将来実現したい夢や目標の有無

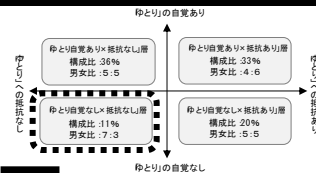


図表58 卒業後、社会に通用する自信



タイプ④

【レポートトピックス⑥】



ゆとりなんか気にしない「つっぱしり層」

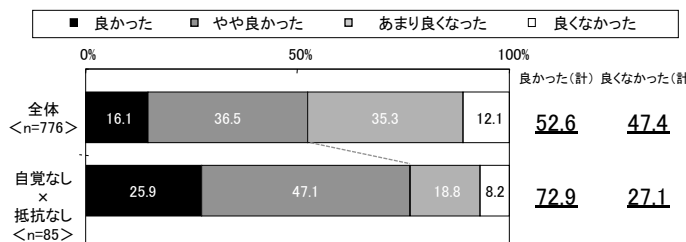
～夢と希望にあふれる熱血派～

最後に本章では、自身を「ゆとり」と自覚していない一方で、「ゆとり」と言われることに抵抗がない層についてみていく。（この層は、全体の約1割程度で、4年生が約4割を占め、男性が約7割が特徴。）この層はなぜ「ゆとり」という自覚がなく、「ゆとり」と言われることにも抵抗がないのだろうか。

まずはじめに、過去に受けた「ゆとり教育」の評価をみてみると、「ゆとり教育」制度が「良かった（計）」と回答した人が約7割で、全体より約20ポイント高かった（図表59）。その理由は「自分の時間が増え、勉強以外の経験や自分のしたいことができたから」が最も多かった（図表60）。また、まわりの人から『あなたはゆとり』だと「言われたことがない」と回答した人が約8割という結果となった（図表61）。このことから、ゆとりの指摘経験が少なく、勉強以外の習い事、スポーツ、旅行などの経験ができたことをポジティブに捉えており、ゆとり教育を非常に評価していることがわかる。このことが「ゆとり」といわれることに抵抗感を示さない理由だろう。

さらに、彼らの価値観の上位項目に注目すると、「人より秀でたい気持ちが強い」、「自分で考えて行動することが得意なほうだ」、「過程よりも結果を重視する」、「出来るだけ人とは違うことにチャレンジしたい」が全体より高かった。その一方で、「他人からの目が気になることが多い」は約7割と全体より約11ポイント低かった（図表62）。このことからこの層は、他人の目は気にせず自分の考えに基づき、わが道を進んでいることから、ゆとりと言われても気にしないタイプのようだ。

図表59 「ゆとり教育」の評価



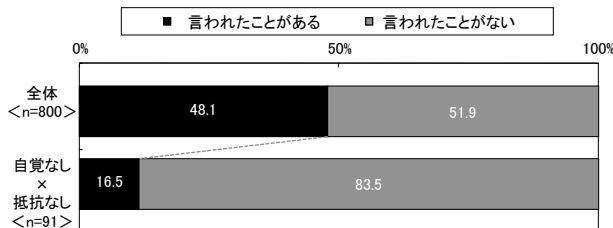
図表60 「ゆとり教育」の評価理由

<自覚なし×抵抗なし,良かったベース:n=62>

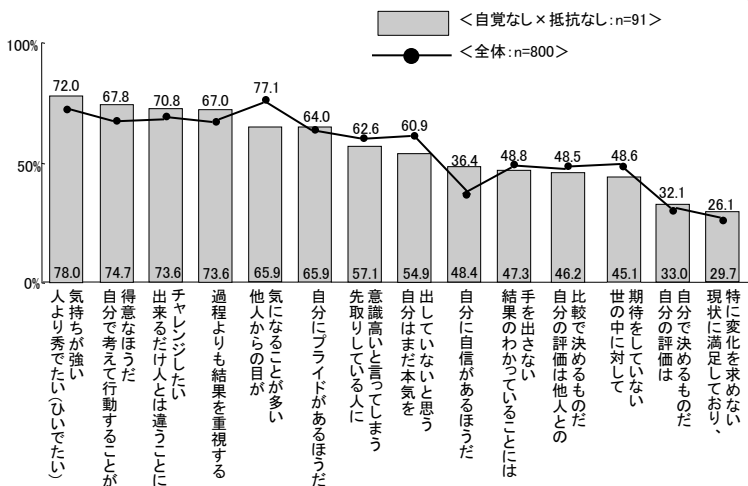
ゆとり教育が「良かった」と思う理由	計(人数)
1位 勉強以外の経験や自分のしたいことができたから	17人
2位 休みが増え、自分の時間ができたから	10人
3位 ゆとり教育を悪いものだと思っていないから	9人

※上位3項目までをピックアップ

図表61 「ゆとり」指摘経験の有無



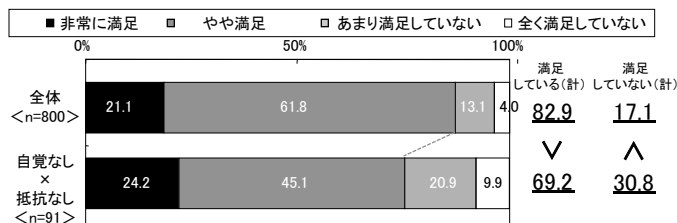
図表62 あてはまる価値観



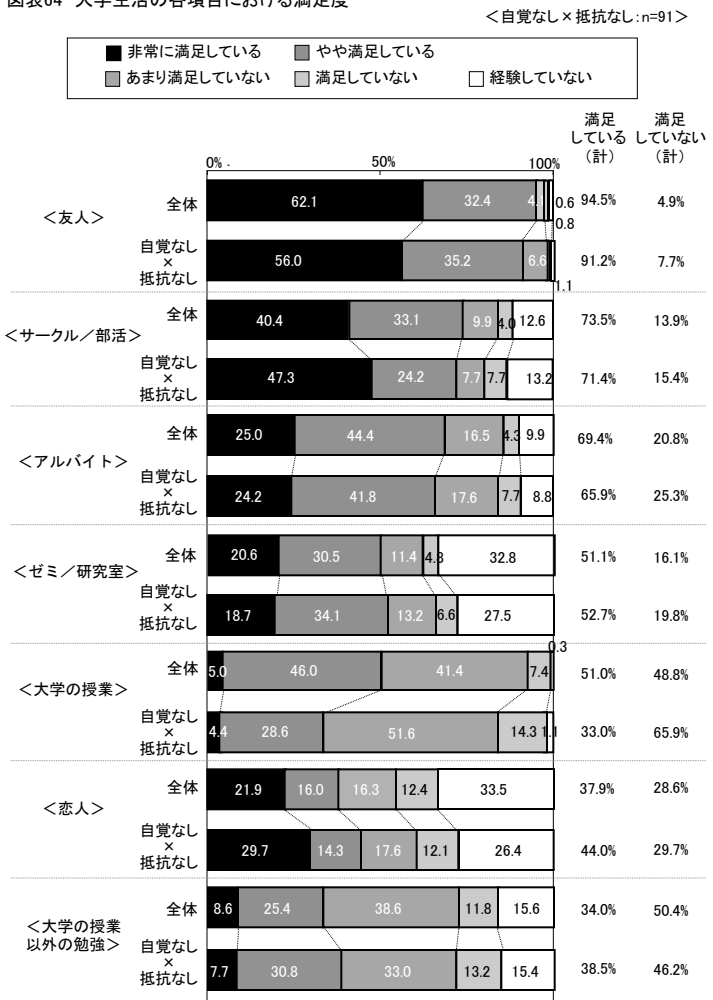
では、現在の大学生活はどうか。今の大学生活に対しては「満足している（計）」と回答した人が約7割で、全体より約14ポイント低かった（図表63）。具体的には、「友人」、「サークル/部活」が高い一方で、「大学の授業」と回答した人は約3割で、全体より18ポイント低いという結果になった（図表64）。ただし、「ゼミ/研究室」、「大学の授業以外の勉強」では全体と同様あるいは全体よりも高い傾向となっており、この層は、大学の授業に満足しきれていない分をゼミや研究室などの活動で補っているようだ。

これは、彼らの性格にも現れている。自分に当てはまるものとして、「自分に甘い」が約6割だが全体に比べ約7ポイント低く、「失敗を恐れる」が約4割、「ハングリー精神がない」が約3割、「打たれ弱い」が約2割と、それぞれ全体より約24ポイント、約19ポイント、約19ポイントと低かった。このことからこの層は比較的タフであり、チャレンジ精神の強い性格であることがわかる。（図表65）

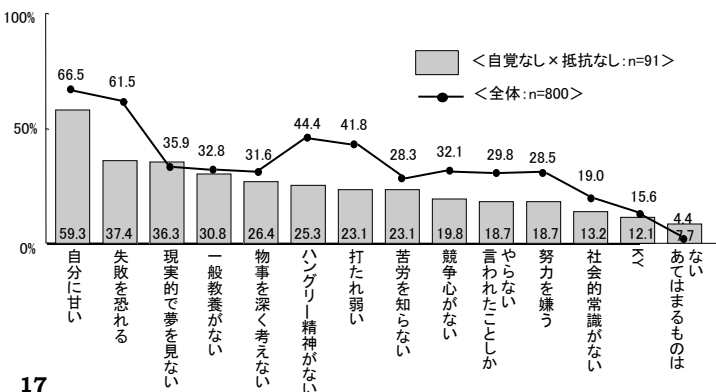
図表63 大学生活全般満足度



図表64 大学生活の各項目における満足度



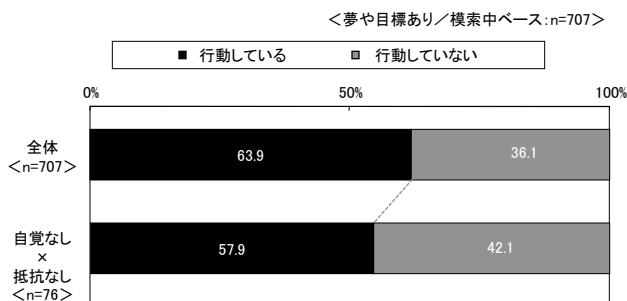
図表65 自分自身の性格について



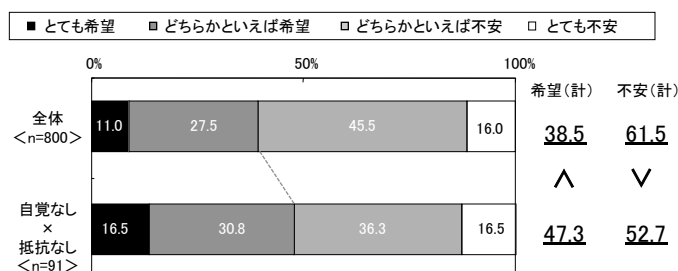
では、そんな彼らはこれから将来に対してどう考えているのだろうか。将来に対して、「希望がある（計）」と回答した人は約5割で全体より約9ポイント高かった（図表66）。次に将来実現したい夢や目標があるか聞いたところ、「夢や目標がある（計）」と回答した人は約7割で全体との差はみられなかったが（図表67）、その夢や目標に向けて行動しているか聞いたところ「行動している」と回答した人は約6割で、全体より約6ポイント低かった（図表68）。一方で、卒業後社会に通用する自信があるか聞いたところ、「自信がある（計）」と回答した人は約6割で全体より約16ポイント高かった。（図表69）。このことから、この層は自分の夢に向かって現在から行動している人が全体と比べて少ない割には、将来に対し自信を持つ人が多いことがわかる。つまり、現在の話でも将来の話でも全体と比べて根拠のない自信を持ちやすく、その自信が前向きで明るい将来を目指すもととなっているのであろう。

このように、この層は勉強以外の習い事など個性を伸ばす経験をできたゆとり教育を高く評価している。そして、カリキュラムの目的のひとつである自主性を伸ばすことができた。その結果、他人の目を気にせず、人とは違うことに積極的にチャレンジしたいという価値観が備わった。現在はまだ暗中模索の状態、将来に向けての明確な行動はできていないものの、将来への希望や、自信は持っており、従来の「ゆとり」のイメージとは大きく異なる特徴を持っている。また、この層は、ゆとり教育が目指す自主性以外にも、持ち前の自信と積極性で自分の興味があることに取り組み、他人を気にせず突き進んでいく「つっぱしり」層であるといえる。

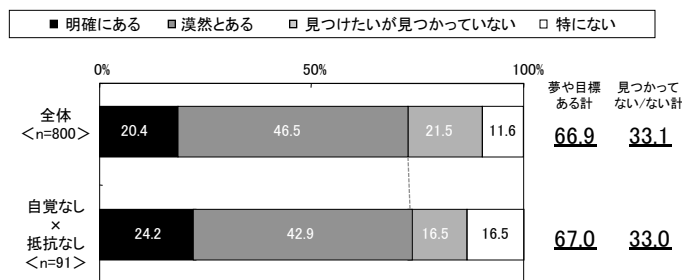
図表68 夢や目標に向けた行動の有無



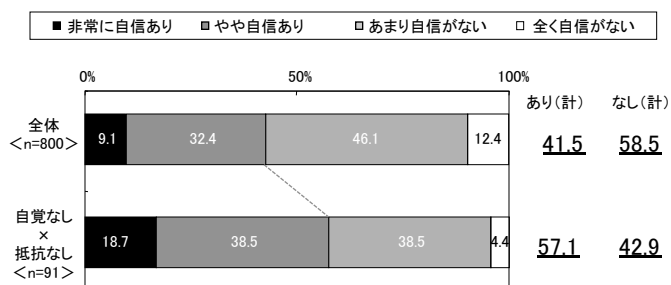
図表66 将来への希望の有無



図表67 将来実現したい夢や目標



図表69 卒業後、社会に通用する自信



【レポートトピックス⑦】

ゆとりもイロイロ、未来もイロイロ

～タイプで異なるゆとり世代の将来像～

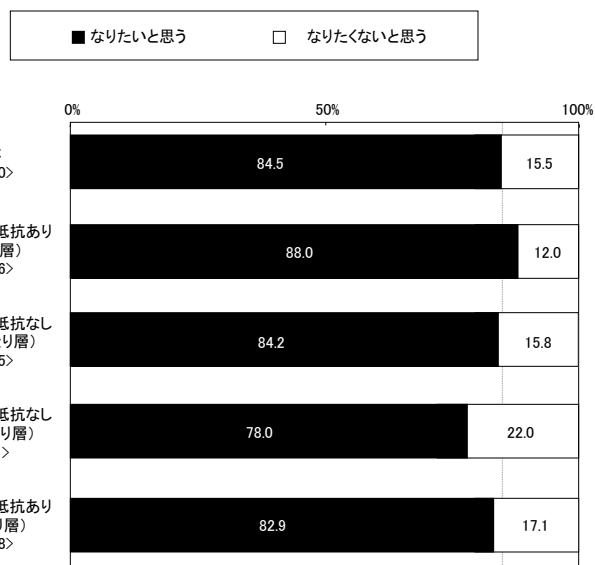
ここまで、現在の大学生を4つのタイプに分けて、その属性を見てきたが、それぞれのタイプで、将来の就職観に違いはあるのだろうか。本章では4つの層を比較しながら、その特性を見ていく。

将来勤め人に「なりたと思う」と回答した人はすべての層で約8割以上となった。その中で、将来への不安を感じている「あせり層」は「なりたと思う」と回答した人が約9割と全体より約4ポイント高く、将来に自信のある「つっぱしり層」は「なりたかと思う」が約2割と全体より約7ポイント高かった(図表70)。これらのことから、いずれの層も基本的には将来勤め人になりたいと感じていながらも将来に不安があり、自信ももてなくなってしまった「あせり層」は勤め人になり安定を、将来に希望があり、自信もある「つっぱしり層」は勤め人以外の道を模索しようとしている傾向がみられた。

さらに、勤め人になりたい理由を聞いてみると、全体と比較して「きっちり層」は「入りたい組織・やりたい仕事があるから」が約4割と全体より約12ポイント高く、「真性ゆとり層」は「安定した生活を送れるから」が約7割で、全体より約6ポイント高かった。また「つっぱしり層」は「お金を稼ぎたいから」が約6割、「組織の中で実力をつけたい・試したいから」が約4割、「社会的信頼が得られるから」が約3割と、全体よりそれぞれ約8ポイント、約8ポイント、約6ポイント高かった。「あせり層」に関しては、全体と比較して特に高い項目はみられなかったが、最も高い項目は「安定した生活を送れるから」で約7割だった。将来の目標があり、既に活動をはじめている「きっちり層」は、具体的にやりたいことができる仕事をするため。将来への不安はあるが、特に行動はしていない「真性ゆとり層」は安定のため。将来に自信がある「つっぱしり層」はお金や社会的信頼と、組織の中で様々な経験をするため。将来に不安があり、自信もない「あせり層」は明確な就職理由を持ってない等、4層で働くモチベーションに違いがあることが分かる(図表71)。

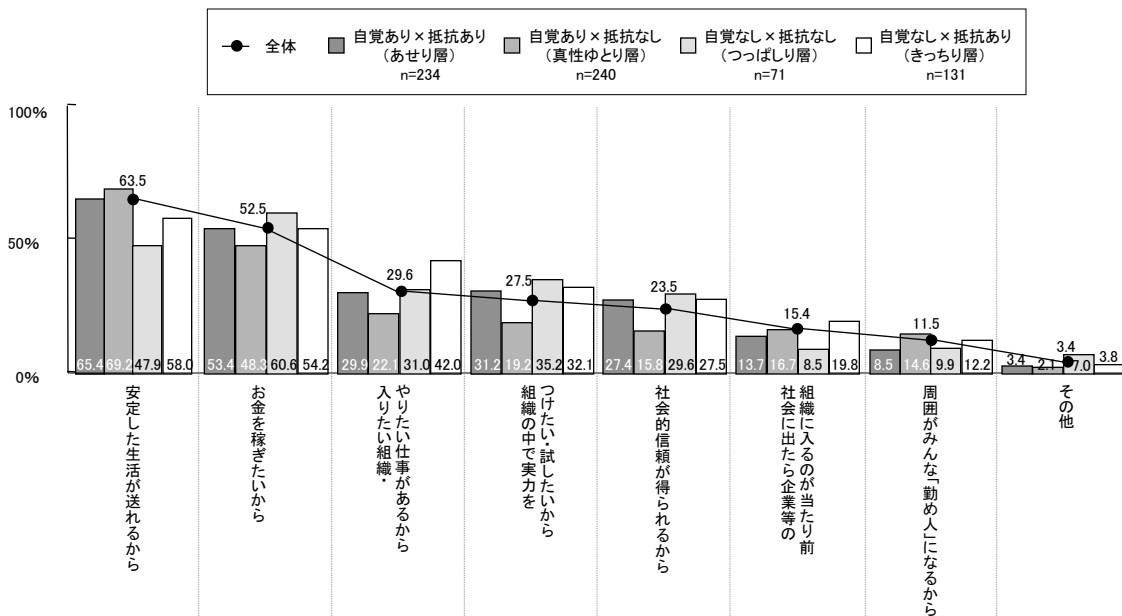
図表70 卒業後の「勤め人」意向

全体:<n=800>



図表71 「勤め人」意向理由

<「勤め人」意向ありベース:n=676>



では、各層ごとに、将来どのような働き方をしたいかということに違いはあるのだろうか。就職したい企業のタイプを二者択一で聞いたところ、「きっちり層」は「転勤等が多くいろいろな仕事を体験できる会社」が約4割。「残業が多いが仕事は面白い会社」が約5割。「休みは少ないが、給料は多い会社」は約7割と、それぞれ全体より約6ポイント、約9ポイント、約6ポイント高い結果となった。「真性ゆとり層」は「性年代に応じた責任を伴う仕事を任される会社」が約4割で、全体より約5ポイント高かった。「つっぱしり層」は、「誰でも知っている大企業」が約7割、「自分の能力次第でポストや給料が決まる会社」が約6割。「残業が多いが、仕事は面白い会社」が約5割。「性年代に関係なく責任ある仕事を任される会社」が約7割。「世界を飛び回って仕事をする会社」が約5割。「休みは少ないが、給料は多い会社」が約8割と、それぞれ全体より約8ポイント、約8ポイント、約8ポイント、約12ポイント、約7ポイント、約9ポイント高い結果となった。「あせり層」は、回答が非常に平均的で、全体と比べて顕著に特徴が現れる項目は見られなかったものの、過半数を超えている項目として「転勤等が少なくひとつの仕事に取り組める会社」が約7割、「社内での使用言語が日本語である日系の会社」が約7割、「仕事は普通だが、自分の時間を取りやすい会社」が約6割、「性年代に関係なく責任ある仕事を任される会社」が約6割という結果になった(図表72)。このように、各層の働き方も、それぞれが勤め人になりたい理由と密接に関係していることが分かる。このように、4層を見てみるといずれも就職観について異なる意識を持っていることが分かる。「きっちり層」は将来好きな仕事をバリバリしながら稼ぎたいという“ストイックスタイル”。「真性ゆとり層」は、安定を求め、若いうちは責任を負わずに仕事をしたいという、やや“消極的スタイル”。「つっぱしり層」は、ストイックに働きながら、性年代関係なく、世界を飛び回る等、新しいことを経験したいという“チャレンジスタイル”。「あせり層」はチャレンジ精神をちらつかせながらも、自分への自信のなさゆえに、確実かつ低リスクを一番に望む“安全第一スタイル”であるといえる。

図表72 就職したい企業のタイプ

全体 <n=800>
 自覚あり×抵抗あり(あせり層) <n=266>
 自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層) <n=285>
 自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層) <n=91>
 自覚なし×抵抗あり(きっちり層) <n=158>

	転勤等が少なくひとつの仕事に取り組める会社	⇔	転勤等が多くいろいろな仕事を体験できる会社
全体	70.8%	⇔	29.3%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	71.1%	⇔	28.9%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	74.7%	⇔	25.3%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	68.1%	⇔	31.9%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	64.6%	⇔	35.4%

	性年代に関係なく責任ある仕事を任される会社	⇔	性年代に応じた責任を伴う仕事を任される会社
全体	62.9%	⇔	37.1%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	62.8%	⇔	37.2%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	57.5%	⇔	42.5%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	74.7%	⇔	25.3%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	65.8%	⇔	34.2%

	誰でも知っている大企業	⇔	今後知名度が上がりそうな小さな会社
全体	59.4%	⇔	40.6%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	57.5%	⇔	42.5%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	57.5%	⇔	42.5%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	67.0%	⇔	33.0%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	61.4%	⇔	38.6%

	年齢に応じてポストなどが保障されている会社	⇔	自分の能力次第でポストや給料が決まる会社
全体	52.3%	⇔	47.6%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	53.4%	⇔	46.2%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	54.4%	⇔	45.6%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	44.0%	⇔	56.0%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	51.3%	⇔	48.7%

	残業が多いが仕事は面白い会社	⇔	仕事は普通だが、自分の時間を取りやすい会社
全体	41.1%	⇔	58.9%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	36.8%	⇔	63.2%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	37.5%	⇔	62.5%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	49.5%	⇔	50.5%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	50.0%	⇔	50.0%

	世界を飛び回って仕事をする会社	⇔	日本国内のみで仕事をする会社
全体	40.5%	⇔	59.5%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	41.0%	⇔	59.0%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	36.1%	⇔	63.9%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	47.3%	⇔	52.7%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	43.7%	⇔	56.3%

	休みは多いが、給料は少ない会社	⇔	休みは少ないが、給料は多い会社
全体	32.9%	⇔	67.1%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	35.3%	⇔	64.7%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	36.5%	⇔	63.5%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	24.2%	⇔	75.8%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	27.2%	⇔	72.8%

	社内での使用言語が英語である外資系の会社	⇔	社内での使用言語が日本語である日系の会社
全体	31.3%	⇔	68.8%
自覚あり×抵抗あり(あせり層)	31.6%	⇔	68.4%
自覚あり×抵抗なし(真性ゆとり層)	28.8%	⇔	71.2%
自覚なし×抵抗なし(つっぱしり層)	33.0%	⇔	67.0%
自覚なし×抵抗あり(きっちり層)	34.2%	⇔	65.8%

ゆとり自覚あり

<真性ゆとり層> 36%

- ・男女半々、1～2年生に多い

ゆとり教育の余韻に浸り、
今を楽しむ俗にいう「ゆとり」
イメージど真ん中の層

【対ゆとり教育】

- ・ゆとり教育を「休みが増えたから」と肯定
ゆとり抵抗感がない「ゆとり受容型」

【性格/価値観】

- ・現状に満足しがち
 - ・人との競り合いを求めない
 - ・自分に甘く、無気力
- ⇒いわゆる世間の「ゆとり」イメージそのもの

【大学生生活】

- ・授業ほか学びにたいして消極的な姿勢

【将来】

- ・安定志向、責任を負わないことを求む

<あせり層> 33%

- ・女性約6割、3年生に多い

「ゆとり」と呼ばれるコンプレックスを
ばねに努力するが、自分を過小評価
しがちであせりやすい心配性

【対ゆとり教育】

- ・ゆとり教育を「学力が低下するから」
「バカにされるから」と、ゆとり教育を
評価しない「ゆとり反抗型」

【性格/価値観】

- ・負けず嫌いだが、弱気な性格
- ・「ゆとり」とひとくくりにされることに
嫌悪感、コンプレックスを抱く

【大学生生活】

- ・授業ほか学びにたいして積極的な姿勢

【将来】

- ・夢や目標に行動をするものの、
自分への自信のなさから将来不安あり

ゆとり抵抗なし

ゆとり抵抗あり

<つっぱしり層> 11%

- ・男性約7割、4年生に多い

「ゆとり」なんてなんのその、
持ち前の自信で他人を気にせずつき
すすむ、「ゆとり教育が目指した存在」

【対ゆとり教育】

- ・ゆとり教育を「多様な経験ができた」と評価、
自覚や抵抗感がない「ゆとり無関心型」

【性格/価値観】

- ・タフでチャレンジ精神が強い
- ・人の目を気にせず、わが道を進む
- ・努力を伴わない自信がある

【大学生生活】

- ・授業への不満を他で補う

【将来】

- ・自分への自信から将来への希望を感じる
- ・安定を求めず、新しいことを求める

<きっちり層> 20%

- ・男女半々、3～4年生に多い

ストイックな努力に基づく
プライドと自信を持っており、
「ゆとり」という自覚がない

【対ゆとり教育】

- ・ゆとり教育に賛否両論、
元から努力をしているので
ゆとりとひとくくりにされることに抵抗感
「ゆとり否定型」

【性格/価値観】

- ・自分に厳しく、目標に向けてコツコツ努力
- ・「ゆとり」の特徴とはかけ離れている

【大学生生活】

- ・授業ほか学びに対して積極的な姿勢

【将来】

- ・将来に対して前向き
- ・夢や目標にむかって計画的に行動

ゆとり自覚なし

【定点観測結果】

～大学生の好きな広告・今年の日本の顔～

サントリーの「GREEN DA・KA・RA」が好感度ナンバーワンに!

大学生の好きな広告は、「サントリー/GREEN DA・KA・RA グリーンダカラちゃん」がナンバーワンだった。08年度より5年連続1位を獲得していた「ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ」は今年は2位となった。去年ランク外だった「日清/カップヌードル/SURVIVE!シリーズ」、「カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈」が同率3位という結果になった。

(全体:n=800)

1位: サントリー/GREEN DA・KA・RA グリーンダカラちゃん	27人 (男性 9人 : 女性 18人)
2位: ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	23人 (男性 4人 : 女性 19人)
3位: 日清/カップヌードル/SURVIVE!シリーズ	12人 (男性 12人 : 女性 0人)
3位: カルピス/カルピスウォーター/能年玲奈	12人 (男性 6人 : 女性 6人)
5位: JR東日本/JR SKISKI/GARA篇	10人 (男性 1人 : 女性 9人)
5位: KDDI/au/Real篇	10人 (男性 0人 : 女性 10人)
5位: ルミネ/橋本愛	10人 (男性 5人 : 女性 5人)
8位: コーセー/雪肌精/新垣結衣	6人 (男性 4人 : 女性 2人)
9位: Apple/iPhone/Photos Every Day篇	5人 (男性 1人 : 女性 4人)
9位: トヨタ/「Re BORN」シリーズ	5人 (男性 2人 : 女性 3人)
9位: 大塚製薬/カロリーメイト/浪漫飛行篇	5人 (男性 4人 : 女性 1人)
9位: 大和ハウス/ベトナムにも篇	5人 (男性 0人 : 女性 5人)

▼参考: '12年度結果 (全体:n=800)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	36人
2 サントリー/GREEN DA・KA・RA グリーンダカラちゃん	20人
2 トヨタ自動車/ドラえもんシリーズ	20人
4 アップル/iPhone・iPad	8人
5 ソフトバンクモバイル/SMAPシリーズ	7人
6 ルミネ	6人
7 ホンダ/負けるもんか篇	5人
7 スズキ/ラパン海へ篇	5人
7 東京ディズニーリゾート/夢がかなう場所 / Where Dreams Come True	5人
10 JR東海/そうだ、京都行こう	4人

▼参考: '11年度結果 (全体:n=800)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	45人
2 ACジャパン/あいきつの魔法編	24人
3 エステー/消臭カ	20人
4 日本コカ・コーラ/コココーラ	16人
5 NTTドコモ/スマートフォン	12人
6 日本コカ・コーラ/ジョージア	9人
7 日本コカ・コーラ/AQUARIUS	7人
7 サントリー/上を向いて歩こう編	7人
9 グリコ/アイスの実	6人
9 ソフトバンクモバイル/SMAP	6人

▼参考: '10年度結果 (全体:n=816)

1 ソフトバンクモバイル/白戸家シリーズ	59人
2 ロッテ/Fit's/佐藤健・佐々木希	16人
2 日産/NOTE/低燃費少女ハイジ	16人
4 東京メトロ/新垣結衣・宮崎あおい	12人
5 NTTドコモ/木村カエラ・渡辺謙	9人
5 西友	9人
5 earth music & ecology/宮崎あおい	9人
8 アップル/ipod・iphone・ipad	8人
8 ニチレイ/アセロラ/アセロラ体操/仲里依紗	8人
10 KDDI/au/嵐	7人
10 カゴメ/野菜生活/AKB48	7人

最近1年間の日本の顔は、安倍晋三首相に

今年の「日本の顔」は「安倍晋三」首相が305票を獲得し初の1位に。次いで、男子サッカーの「本田圭佑」が65票を獲得し2位、「香川真司」が55票を獲得し3位にランクイン。その他には「林修」、「剛力彩芽」、「きゃりーぱみゅぱみゅ」がランクインを果たした。

(全体:n=800)

1位: 安倍晋三	305人 (男性 142人 : 女性 163人)
2位: 本田圭佑	65人 (男性 31人 : 女性 34人)
3位: 香川真司	55人 (男性 42人 : 女性 13人)
4位: 林修	28人 (男性 13人 : 女性 15人)
5位: 剛力彩芽	25人 (男性 10人 : 女性 15人)
6位: きゃりーぱみゅぱみゅ	21人 (男性 7人 : 女性 14人)
7位: 山中伸弥	13人 (男性 7人 : 女性 6人)
8位: 橋下徹	12人 (男性 5人 : 女性 7人)
9位: キンタロー。	11人 (男性 1人 : 女性 10人)
10位: イチロー	9人 (男性 7人 : 女性 2人)
10位: 松井秀喜	9人 (男性 5人 : 女性 4人)

▼参考: 2012年の今年の顔
 <全体:n=800>

1位: 澤穂希	147人
2位: 香川真司	125人
3位: 野田佳彦	96人
4位: スギちゃん	51人
5位: 橋下徹	26人
6位: 前田敦子	25人
7位: ダルビッシュ有	20人
8位: 本田圭佑	17人
8位: 小沢一郎	17人
10位: 芦田愛菜	16人

I 大学生生活全般 について	29
大学生生活全般 満足度	30
大学生生活 各要素満足度	31
授業を受ける態度	33
将来に向けての勉強(自分の大学の授業以外)	34
具体的な勉強方法	35
II 自分自身の将来像 について	36
「自分の将来」への希望／不安度	37
景気回復実感度	38
将来実現したい夢や目標の有無	39
夢や目標に向けての行動有無／具体的な行動	40
大学(院)卒業後の「勤め人」意向／「勤め人」になりたい理由	41
就職したい企業のタイプ	42
大学(院)卒業後の社会に通用する自信	44
現状において高い地位と収入を得ている人	45
将来、高い地位と収入を得るべき人	46
III 自分自身と同世代の意識 について	47
パーソナリティ①(自分自身／同世代の人たち)	48
パーソナリティ②(自分自身／同世代の人たち)	49
IV ゆとり教育とそれに関する意識 について	50
「ゆとり世代」認知度	51
「ゆとり教育」実感度	52
「ゆとり教育」評価	53
「ゆとり教育」を実子に受けさせたいか	54
「ゆとり」指摘経験	55
自分自身「ゆとり」実感度	56
自分以外の同世代「ゆとり」実感度	57
「ゆとり」抵抗感	58
行動意識	59
ゆとり世代と言われてきたことによる影響が大きいと感じるもの	62
V さとり世代に関するイメージや意識 について	63
「さとり世代」認知度	64
「さとり」指摘経験	65
自分自身「さとり」実感度	66
自分以外の同世代「さとり」実感度	67
「さとり」抵抗感	68
「ゆとり」vs「さとり」	69
自分は“〇〇”世代	70
VI 定点観測	71
広告関心度	72
広告関心度(時系列比較～過去10回調査での動き)	73
広告に対する意見	74
広告に対する意見(時系列比較～過去10回調査での動き)	75
大学生が選ぶ最近1年間の日本の顔	76
好きな広告	77